

大分類	中分類	内容
検討の進め方	目的（ゴール）、範囲、基本方針の設定	○検討の初期に目的（ゴール）、議論の範囲の設定、基本方針の設定を行ってはどうか。 ・目的：富士見市における社学協働のあり方～地域学校協働活動を中心として～ など ・基本方針：子どもたちの学びの充実、教員・学校の負担軽減に資するものであること など
検討の進め方	理念、目的の明確化	●理念と目的を明確化し、市全体で共有すること ・なぜ設置するのか？・設置により何を果たそうとするのか？
検討の進め方	市としての理想の人材像の明確化	富士見市としてどのような人を育てたいのか、理想像を掲げることが大事だと考えます。 また、それぞれの学校の特色を活かすのか、富士見市全体として特色を出していくのかによっても方向性が異なるので、熟慮すべきと考えます。
検討の進め方	市としての理想の人材像の明確化	何を富士見市として、地域として理想像とするのか、が、キーとなると思います。 個人的には富士見市全体としての理想像を掲げ、本部から各地域、学校をコーディネートする方向だと、地域や学校に負担が重くならないと考えます。
検討の進め方	委員の政策学習	○委員の政策学習を行ってはどうか。 （１）社学協働に関連した講演会等への参加 （２）政策学習会の開催（資料での学習、国・県の職員を講師とした委員学習会の開催） （３）現地実態調査（県内、近隣の受賞団体・組織への視察）
検討の進め方	事例研究	・先進事例を複数研究し、どのようなパターンが富士見市に合うか検討すること。
検討の進め方	既存リソースの調査	検討を進める順序は以下のようにしたらどうでしょう。 ①社会教育委員会で検討することなので、まず社会教育分野のリソースで地域学校協働本部に必要とされる部分を洗い出す。 ②社会教育以外の分野から求められるリソースを明らかにする。 ③それらをどう統合し、地域学校協働本部として組織化するかを議論する。
検討の進め方	既存リソースの調査	・まったくの新規で地域学校協働本部という組織の構成を考えるのではなく、既存の地域活動団体、共同体としてどのようなものがあり、どのような構成メンバーが参加して、どのような活動をしているかを洗い出し、その組み合わせや大同団結、協働を検討し、役割を追加・変更していくのが良いのではないか。
検討の進め方	既存リソースの調査	○公民館、MLA（博物館、図書館、資料館）施設の事業で協働活動として活用できそうな事業の洗い出しを行ってはどうか。
検討の進め方	ニーズ調査	○学校現場のニーズを調査してはどうか。 （地域づくり、防災教育、キャリア教育など教育現場が多忙で実施できなかった潜在ニーズの把握）

大分類	中分類	内容
本部のあり方	組織の要件	・当面、現存する「学校運営協議会（R8より）」を核とする。 ・地域学校協働本部は、各小、各中学校に設置する。
本部のあり方	組織の要件	今ある「強み」を伸ばすのか「弱み」を克服させるのかによって、理想の形が変わるのではないかと考えます。 【学校ごとの特色の場合】 学校地域に分割した時にそれぞれの特色があると考えます。 【富士見市全体の特色の場合】 本部主導で特色を提示し、それに対しての各学校で検討していただき、本部が統括するのが理想と考えます。
本部のあり方	組織の要件	・「学校運営協議会」構成員（立場等）との「完全差別化」を図る。
本部のあり方	組織の要件	・学校区に捉われないこと。小学校区にせよ中学校区にせよ、学校区で地域学校協働本部を作ってしまうと、参加者が学校運営協議会と同じになってしまい、存在価値がない。
本部のあり方	組織の要件	・一定の規模感と多様性、網羅性があること。地域の企業やNPOなど多様な地域の関係者が参加することで、学校単位ではできないことを実現できる。→一つの地域学校協働本部の中に、複数の小中学校が構成メンバーとして入ることになる。
本部のあり方	組織の要件	・市内の全小中学校が必ずどこかの地域学校協働本部に入っていること = 空白地帯がないこと。→逆に多少のエリアの重複はやむなしとするか。
本部のあり方	組織の要件	○現時点では、公民館単位に地域学校協働活動推進員を、教育委員会（生涯学習課）に統括地域学校協働活動推進員を配置することが理想と考えています（ただし、現実的には財政状況も考慮し、複数館の兼務などの方法も検討していかざるを得ないものと思料します。）。
本部のあり方	組織の要件	・既存の協議会や共同体を取り込み、既存の活動を包括する形で運営すること。市内横断型の既存の協議会や共同体の場合は、協働本部のエリアに合わせて、地域ブロック組織を作ってもらうのが良いかも知れない。

大分類	中分類	内容
本部のあり方	構成員	「本部」が学校運営協議会と一体的・連携的に機能し、地域住民・NPO・企業等を組織化して学校支援ボランティアのマッチングや地域課題解決活動をコーディネートするという役割を担うために ・地域の様々なステークホルダーが参画すること。（教育関連に限定しない）例：希望する住民、団体（町会、●●保存会、商工会、商店会、社会福祉協議会）、企業、商店、行政の各組織・施設・職員（●●主事、学芸員、司書）
本部のあり方	構成員	・学校が地域学校協働本部に最も期待することは、地域の人財や施設、ノウハウなどの情報提供及びコーディネートである。商工会などとの連携を強化し、教員と社員がともにビジネスパートナー（いい意味での強制＝愛校心の育成&企業の地域貢献）として関わることで、地域活性化を持続可能なものにできないだろうか。
本部のあり方	構成員	・名実共に地域を実感できる「シン（新）」組織体の構築。（様々な立場、世代等々） 構成員（イメージ） ・卒業生（OB・OG） ・官学連携協定の学生 ・障がい者（団体含む） ・文化・芸能継承、伝承者 ・本市に本社のある企業関係者 ・商・工・農等自営業者 ・市民（住民）等々
本部のあり方	構成員	・子どもが「当事者」として関わること → 子どもを活動の対象や受益者としての扱いにとどめず、地域の一員・担い手として役割を持つ存在として企画・運営・発信などに関わる機会が必要ではないか。（しかし、非常にハードルが高いことだとは理解しています。）
本部のあり方	構成員	・プロジェクトの内容に応じて、専門性のあるメンバーを本部の外からもアサインできるようにする。（そのためには地域のリソースを最大限に活用できる仕組みが必要/ この仕組みが同時に本部のメンバー構成をアップデートさせる仕組みにもなる）。
本部のあり方	構成員	本部メンバーとして、今までの学識経験者等の他に、中学生（生徒会が良い気がします）にも討議に参加してもらえると良いと思います。
本部のあり方	構成員	成人を祝う会で各中学校から代表者を出していますが、その代表者も1年任期となりますが討議に参加すると良いのではないのでしょうか。
本部のあり方	構成員	お金がかかってしまいますが、メンバーの中に顧問として民間のコーディネーターやコンサルタントを入れた方がなお良いと考えます。（客観的な意見をいただくため）

大分類	中分類	内容
本部のあり方	本部の理念	●単なる「学校支援組織」ではなく、学校と地域が「子どもを通して、地域の未来を共に考える関係」を生み出す「核」として存在する。
本部のあり方	本部の理念	・「お願い型」ではなく「共創型」であること → 学校の要請に地域が応える関係ではなく、「どんな子ども・地域を育てたいか」を起点に対話が為され、活動をともに設計・構築していく関係が必要ではないか。
本部のあり方	本部の理念	・一律の形を求めないこと → 地域性や学校文化、人材状況などに応じた多様な姿を認める柔軟性・寛容さが必要ではないか。
本部のあり方	本部の理念	・社会教育を軸に据えること → 公民館や図書館等の社会教育資源が単なる場所提供ではなく「学びの設計者」として関わる必要があるではないか。
本部のあり方	本部の理念	・地域のひとりひとりの住民（ステークホルダー）が持っている力を発掘し、地域の力を最大限に引き出す。
本部のあり方	本部の理念	・希望者はだれでもメンバーになれるオープンな雰囲気。（自主的な参加を重んじ、参加の強要はしない）。メンバーは常にアップデートされる。
本部のあり方	本部の理念	・小、中学校の連携を活かし、地域、住民、地域企業の支援を有効に活かせる組織であること。
本部のあり方	本部の理念	・「地域学校協働本部」として活動しているだけではない組織（ボランティア人材プール、地域活動の中核母体、地域課題解決活動のコーディネーター、地域価値共創プラットフォーム）
本部のあり方	本部の運営	・活動はプロジェクトベースで進める。（学校運営協議会からの相談を受けてプロジェクト化することが多いかと思う）。
本部のあり方	本部の運営	・プロジェクトの実行フェーズでは、強力な少人数のタスクフォースを組織して、プロジェクトを推進する。（そのタスクフォースを中心として、実行メンバーが組織化されるかたち）

大分類	中分類	内容
機能させるポイント	本部組成時のポイント	・様々なチャネルを通じ、あまねく声をかけること。
機能させるポイント	本部組成時のポイント	・（CSは地域のなかの学校のあり方をみんなで考える仕組みなのだから）庁内の各組織の理解と協力を得ること。特に、庁内と行政関連の団体は「声がかからなかったので知りませんでしたし、参加しませんでした」はNGであるということを徹底すること。
機能させるポイント	本部組成時のポイント	・庁内だけで話し合っただけで決めるのではなく、庁外のステークホルダーにも参加してもらい、地域一体となって進めること。（時間がかかってもよいので、民主主義のプロセスを尊重する）。
機能させるポイント	本部組成時のポイント	・様々なステークホルダーが関わる団体が既にあるならば、その団体に協力してもらうこと。
機能させるポイント	本部組成時のポイント	・地域の構成員である市民一人ひとりに「地域学校協働活動」についての「周知」をどのような方法で実施するのか、効果が高いか？の研究・検討。
機能させるポイント	本部組成時のポイント	・様々なステークホルダーが集まり、共有すべき理念を十分に話し合い、その理念を堅持すること。
機能させるポイント	本部組成時のポイント	・構成員の「選考方法」（公平・公正性重視） 関係団体等への依頼・推薦であっても「公募」と同様の選考方法を導入。
機能させるポイント	本部組成時のポイント	・「学校運営協議会」のメンバーに地域学校協働推進委員を加える。 コーディネーターになりうる委員も加えておくとよい。 現存する「学校運営協議会」のメンバーの活用も有効である。
機能させるポイント	本部運営のポイント	・誰でも何を言っても否定されない心理的安全性。
機能させるポイント	本部運営のポイント	・声の大きなひと、力がありそうなひとに任せきりにしない。
機能させるポイント	本部運営のポイント	・マイノリティ属性のひとの声に耳を傾ける雰囲気がある。
機能させるポイント	本部運営のポイント	●本部やコーディネーターは「つなぐ・翻訳する」役割に徹し、行事運営の丸抱えや教員代替業務を担うことがないようにすること。
機能させるポイント	本部運営のポイント	●コーディネーターの役割を限定し、学校負担を減らす仕組みを構築すること ・コーディネーターを「調整役」に留める。 ・「便利屋」扱いしない。
機能させるポイント	本部運営のポイント	・月に1回（同じ週の同じ曜日同じ時刻）に、同じ場所（できれば駅近などの便利な場所で、いるだけで気分が上がる場所）で開催する。
機能させるポイント	本部運営のポイント	・活動費をどうするか？（行政からの予算、補助金、寄付など）
機能させるポイント	本部運営のポイント	・参加者の負担が大きくないこと＝地域学校協働本部の活動が既存の活動とまったく別の新規のものになるのではなく、既存の活動が+aの意味付けをされ、学校も巻き込んだ活動に衣替えする。

大分類	中分類	内容
機能させるポイント	制度運用のポイント	・前提として、市民一人ひとりに対して「開かれた教育委員会」の再構築。 (レイマンコントロール含め)
機能させるポイント	制度運用のポイント	●評価と見直し基準を明確化すること ・数値化しにくい「学び」や「関係性」を如何に捉えて評価するか。 ・決して「成り行き」まかせにはしない。 ・活動への参加人数／実施イベント数だけで評価しない。
機能させるポイント	制度運用のポイント	●対話が生まれたこと、関係性の変化、子どもや地域に生じる新たな関わりを重視・評価すること。
機能させるポイント	制度運用のポイント	●短期的に成果を求めず、中長期視点で進めること。
機能させるポイント	制度運用のポイント	●段階的に導入すること ・試行し、成果を評価した上で、全市へ展開する。
機能させるポイント	制度運用のポイント	●学校側の不安や負担感を理解し、段階的に進めること。 →無理に学校を開こうとさせないこと、準備ができたところから段階的に進めることが重要ではないか。
機能させるポイント	制度運用のポイント	●地域資源の見える化と効率的なマッチングを果たせるデジタル化を実現すること。
機能させるポイント	制度運用のポイント	●行政事業化・形式化への歯止めを設けること。